

THE PROFESSIONAL

ドラマは現場で起こっている



結婚披露宴で、数々のドラマに立ち会うさまざまな職種の方にご登場いただく当企画。今回は、サウンドコンシェルジュとして音楽でウェディングパーティーの世界観を作り上げる山口哲治氏に、プロフェッショナルとして心掛けていることや目指していることについて伺った。

My sound concierge for wedding
代表
山口 哲治氏

音楽業界からウェディングへ

子どもの頃から映画音楽などに強く魅了され、大学卒業後はできるだけ厳しい環境に身を置いて成長しようと放送制作技術・音響技術関連の会社に入社しました。音楽番組や舞台運営などの経験を積む中で、多くの人を感動させる演出の仕事から、より深く個人に関わるような仕事をしたいと考えるように。ちょうどその頃、転職サイトで(株)Plan・Do・Seeのプランナーの接客エピソードが掲載されており、なんて素敵な仕事なのだろう！と早速応募しました。

転職後は、神戸にある「蘇州園」のダイニングのアルバイトスタッフからスタート。お客さまに没入感を与える空間を実現するにはどうしたらいいかと考えては、空き時間に庭園のライティングやBGMを微調整したり、ロビーに整然と配置された椅子をあえて間隔を開けて並べてフォトジェニックにしたりと、今思えば風変わりなアルバイトだったと思います(笑)。法人向

け宴会のプロデューサーやウェディングプランナーになってからも、音楽や照明で会場のブランドに合致した世界観を作ることにごこだわりを持ち続けていました。それが奏功してお客さまや先輩、上司からウェディングパーティーの選曲依頼をいただくようになり、自社ブランドのドレスショーでもBGMの選曲を依頼されるなど仕事の幅が広がったのです。

音楽には世界観を完成させる力がある

店舗の在職時から独立後の現在のコンサルティング業に至るまで、多くの会場に関わりましたが「世界観を完成させるにあたり、音楽の関わりには改善できる余地がまだまだある」とずっと感じていました。日本中のラグジュアリーなホテルからカジュアルな会場まで、それぞれが自会場のお客さま層を熟考した上で提携衣裳やフラワ―、演出などの提携企業をセレクトしてい

るのに、なぜかBGMのセットリストだけではどこも同じ。ヘアメイク、花、衣裳など多くの分野は各クリエイターが活躍してセンスアップされていく中、音楽だけは定番の曲が流れていて……。「もっとおふたりらしくできるのにな」と思っていたのです。音楽って、世界観をガラリと変えることができるものではないでしょうか？例えば装飾のない部屋でも、流れている曲がヒップホップ



お客さまの求める空気感をヒアリングし、実際に提案曲を流しながら打ち合わせを進める。オンラインでの打ち合わせも可能だ

か演歌なのかで、その空間の印象はまったく変わりますよね。デザインにこだわり作り上げた世界観も、流れる音楽によっては意図しないありきたりな印象に変わってしまいます。選曲次第で、無機質な空間も彩ることができる音楽。その効果を存分に生かしておふたりの世界観を徹底的に作り込むために、選曲を提案するサウンドコンシェルジュの業務を始めました。

選曲は、これまでコンサルティングの一環として行なってきたコンセプトメイクの手法で入場や歓談など各シーンの意図をヒアリングするオリジナルのワークを行ない、その場でおふたりのための曲を提案します。人気の定番曲や有名曲には聞かぬ人それぞれのイメージや思い出がすでに刷り込まれていることもあります。例えば初めて見る映画で初めて聞く曲が流れても、その映画の世界観にぴったり合っているならば感動しますよね。おふたりが理想とする世界観や各シーンの意図を音楽で後押しするために、定番ではない曲も積極的にオススメしています。

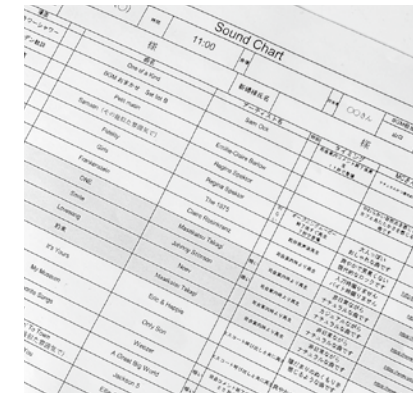
その選曲で、どのように素敵になるのかを事前に目に見える形でお伝えするのは難しいところ。リリース時はこのサービスの価値をどのように伝えていこうか思案しましたが、最近のお客さまはアーリーアダプターな方も多く、ホームページをオープンしてInstagramで告知すると、早速反響が。TikTokやInstagramのリアルなど、撮影した動画に自分で音楽を入れて発信する文化が定着したことで、お客さまが音楽のもたらす効果を実感する機会も増えています。このニーズにしっかり答えて、「今までの最高を超える結婚式を作る」サポートをすることが、音楽の力を大切に考え続けた私の使命なのだと思います。

最終的な納品は
パーティーの完成度

具体的な事例についてもお話ししましょう。例えばケーキカットも、盛り上げたいおふたりもいれば、自然な雰囲気で行ないたいおふたりもいます。後者であればBGMやMCはタイミングをあおらない方が効果的です。新婦がご兄弟と中座するようときも、伝えたい気持ちが「ありがとう」なのか「これからよろしく」なのかではふさわしい曲調も微妙に違ってきますし、ゲストに与える印象も曲によって変わりますよね。新郎新婦から親御さまへの手紙では、幼い頃の面白いエピソードを披露される方も。よく選ばれるしみりした感動系の曲をBGMにすると、狙い通りに盛り上がりません。

こうした打ち合わせを新郎新婦と行なうのは、進行が固まってきた1~2カ月前。おふたりがご自身の好きな曲や思い出の曲をリストにして、お持ちいただくことも多いです。それも考慮しながら、「乾杯後にどんな空気感になってほしいですか？発声する方はどんなお人柄ですか？」という風に、それぞれのシーンで希望している雰囲気や空気感、ゲストの人柄を丁寧にヒアリングします。シーンごとにご希望の空気感を醸成する曲を提案していくと、おふたりも「思い出の曲で入場しようと思っていたけれど、プロフィール映像でふたりのことを知っていただいた後の方がいいね」など前のめりに。楽しそうに一曲一曲を決定される姿がとてもうれしいです。

選曲の提案は、選曲のスペシャリストチームと二人三脚で行なっています。普段から「雨の日曜日」「月曜日の通勤時」など、さまざまなキーワードに合う曲を選ぶトレーニングを日々重ねて、意思の疎通が円滑に進むよう



コンセプトや各シーンの意図など、打ち合わせ内容の全てを会場にメールでシェア。BGMチャートには、司会者、PA、キャプテンに対してタイミングや声の抑揚についても記載している

にしています。同じアーティストの同じ曲でも、バージョンやアレンジが違うこともありますから、そこも含めて日々のインプットは欠かせません。

司会者やPAへ申し送りするBGMチャートには、ヒアリングした希望についても細かく表記。すると司会者もPAも、それにぴったり合わせた声色、音量、タイミングで結婚式を作り上げてくれます。先日、披露宴最後の謝辞でご新郎さまから『My sound concierge for wedding』が、私たちの結婚式の世界観を完成させてくれました」というお言葉をいただき、これまでで一番やりがいと喜びを感じた瞬間でした。

この仕事は、パーティーの完成度が最終的な納品です。時代の変化や長引くコロナ禍において、今“結婚式をしよう”と決めてくださったお客さまに、どうすれば期待以上のウェディングを提供できるのか。結婚式を挙げた体験、参列した体験をどこまで素晴らしいものにできるのか。その思いを軸に、一組一組と丁寧に向き合っていきたいですね。

山口さんの考えるサウンドコンシェルジュとは

この仕事には、音楽を通じておふたりの理想を“体験”という形で届けられるという魅力があります。

ウェディングのプロフェッショナルである私たちが、選曲という多数あるプロセスの一部分でサポートに入ること、おふたりに「結婚式を挙げる価値はあった」と思ってもらえる時間を提供したいと思っています。今後も精進してよりいい仕事をして、数年後にはどの会場でも進行の打ち合わせと同じくらいの温度感でBGMの提案が行なわれるようになったらうれしいです。

お客さまにこれまでにない情緒的な感動を体験していただき、同時に会場に関わるスタッフの皆さんの意識が変わることも目指しています。他にはない付加価値が他会場との差別化になるので、結果的にコンサルタント業ともつながりますね。

For
プランナー

「音楽」というと、まず音楽著作権のことが思い浮かぶ方も多いのではないのでしょうか？プランナーの皆さんも気を使う点だと思いますが、音楽も装花やペーパーアイテム、衣裳などと同等におふたりの求める世界観を作る上で大切なアイテムです。納得の選曲になれば、お客さまご自身の思い出を残すためにも音源を購入くださるなどスムーズにクリアできるようになります。ぜひ一緒に、もっと素敵な結婚式にしていきましょう！

山口 哲治
Tetsuji YAMAGUCHI

大学卒業後、音楽業界を経て2004年にブライダル業界へ、蘇州園でのプランナー経験を経て、ブライダルマネジャーとして、ゼネラルマネジャーに就任。12年に京都の新規会場の立ち上げや、神戸旧居留地のゲストハウス業績改善支援後、13年にブライダル・ヒューマン・ソリューションズ(株)でのコンサルタント業務を経て17年に独立。現在はサウンドコンシェルジュを含むブライダル業界に特化したコンサルティング業務を行なうほか、各種イベントのDJ活動も。趣味は旅行、外食、読書、映画、舞台鑑賞。